

第5回佐賀県GM21 ミーティング特別版 議事録（概要版）

1 開会

事務局である市町支援課が開会宣言を行った。

2 意見交換テーマ

「和のさがづくり」、「明治維新 150 年『肥前』の顕彰」

3 意見交換概要

趣旨説明

【山口 知事】

ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」であるが、「和食：日本人の伝統的な食文化」が正式な登録名称となっている。単なる和食ではなく、伝統的な生活様式であるとか、附帯的なものがついて無形文化遺産となっているということがポイントである。

「多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重」、「栄養バランスに優れた健康的な食生活」、「自然の美しさや季節の移ろいの表現」、それが年中行事と密接な関わりを持ち、家族や地域の絆を強化して初めて無形文化遺産に登録されているということを確認したいと思っている。

例えば、「継承」。地域の食文化、行事食を守ることでもある。そして、「健康・長寿」、理想的な栄養バランス、脂分が少ないということ。「いただきます、ごちそうさま」といった「対話・習慣」にも和食の素晴らしさがある。そして天日干しや発酵といった「環境」があり、初めて和食となる。そして、手の込んだ美しさといった「技術」、包丁・器・はしの美しさ。そして、「地域文化」、それぞれの文化がある。そして「大衆性」、和食はそれぞれの家庭で出汁の素朴さから家庭料理としてもてなすことができる。そして「順応性」、しょう油や砂糖は後から出てきたものである。そういったものをうまく使って和食というのは時代に合わせてやってきた。このようなことが和食の素晴らしさを構成している。佐賀県はこういったところを大事にしていきたいと考えている。

例えば、世界は日本食に注目している。炭水化物の糖質と脂質の推移であるが、アメリカ食はハンバーガーなど脂質が多く糖質が少ないところに問題点があると言われていたが、日本はアメリカに近づいている。日本人が和食を食べないことも問題と考えており、改めて佐賀県は和食の良さ、和の素晴らしさを認識して前に進んでいきたい。

外国人に求められる和食ということで、インバウンドを増やしていくという制度の話もあるが、どこの国も日本食に興味がある。香港から佐賀県に多く訪れているが、佐賀牛といった和食を求めている。食というものを極め、各地域で大事にしていくことが重要である。

日本国内の旅行で興味のある体験・ツアーということで、伝統的な食文化体験が1位となるため、佐賀県のそれぞれの地域での食文化体験というものをしっかりとえぐっていくことが大事であり、伝統産業の体験や農業体験といったものもある。佐賀県らしさを残して大事にしていくことが、インバウンドを迎え入れる上でも重要である。

最近、佐賀県の素材の良さや和食の素晴らしさを皆さんにブリーフィングするという事で「あさご藩」という取組を始めたところである。また、子どもバージョンを製作し、子どもにも朝ごはんを食べてもらうということを発信していきたいと考えている。これから 20 市町の物も順次入れながらやりたいと思っているため、おすすめのものがあれば声を掛けていただきたい。

(絵葉書プロジェクト、和装街歩き支援事業を紹介)

「明治維新 150 年『肥前』の顕彰」をやっていききたい。薩長土肥、高知県と山口県と鹿児島県の 4 県知事で一緒に取組んでいる。佐賀県で肥前のことがあまり理解されていない。なんとか再来年までに自分達知ることにより気運を高めていきたい。例えば、高知県は来年から維新博に取り組む。他の 3 県は、来年の大政復古の 150 周年をテーマにしているが、その際、佐賀藩はあまり出てきていない。ものづくりや人づくりで世界を見ていたところに肥前の素晴らしさがあるため、再来年に向けてと思っている。

また、明治維新 150 年の認知状況は、佐賀県の調査では「知っている」は 16%であるため、これから広げていきたいということと、例えば、地域ブランド調査によると、「わが県はこれが誇り！歴史人物、著名人、職人などにゆかりがあるトップ 10」ということで、山口県、京都府、鹿児島県、高知県は自分達の歴史に誇りを持っているが、佐賀県は 17 番目であるため、まだまだやるべきことがあると思っている。

また、来年は日本の万博初参加から 150 周年の年。出展したのは江戸幕府、佐賀藩、薩摩藩の 3 つ。佐賀藩は有田焼を売りに行った。その時の儲けで蒸気船を造り世界を見ていた。今どのような博覧会だったか調べている。分かっている範囲では、野中元右衛門がパリで亡くなった話などがある。

再来年に向けて佐賀藩の偉業、唐津藩、対馬藩も含めてめぐりだす作業をやっていくので、各市町の情報を提供いただきたい。高知県はメイン会場を県の近くで、市町にも会場を設ける。市町の方でどんな小さなことでも出していただいて、全体として顕彰事業の一環としてやることも可能なのでこれから考えていきたい。市町がどのような状況だったかも分析していきたい。子ども達に本当の佐賀の良さを知ってもらうことが重要であり、先生の存在も大きいと思うため、しっかりとやっていきたい。

主な意見交換内容

【樋口 鹿島市長】

江藤新平の像が神野公園内にある。明治維新で活躍した方々を京都の京都霊山護国神社に祀っているが、佐賀県出身は1人のみである。維新の志士として取り上げていきたいと思っている。

【山口 知事】

県の方で維新の志士を紹介する仮設の博物館のようなものを造ろうと思っている。各市町で顕彰すれば幅が広がると思っている。薩長土肥に関する4県のうち、佐賀県のみ150周年事業が企画されていなかった。しっかり取り組まなければならない。

【松本 神埼市長】

七賢人に限らずもっとおられるのではないかと。もっと宣伝・PRするべきである。谷口藍田のような若者の教育に尽力した人をもっと顕彰すべき。みんなが知るべきであり、知らないから誇りも持てず関心も持たない。

【秀島 佐賀市長】

江藤新平も島義勇も佐賀の乱を起こしたということで悪いイメージがあるが、名誉回復や佐賀の賢人としての周知を図ることが大事である。

【山口 知事】

西郷隆盛は同じように西南戦争を起こして、すぐ名誉が回復されている。県民も含めて考えなければならない。

【松本 神埼市長】

当時、日本の義のために佐賀県人は頑張ったと思っている。

【江里口 小城市長】

佐賀藩が活躍した教育の原点は葉隠にあると思っている。昔、葉隠は軍国主義に利用されていたが、時代の中で必要とされている教えがあるのではないかと。今、葉隠の英語版が出て、海外からも注目されている。

【山口 知事】

当時、唐津藩が何をしていたかということ。どういう形で佐賀藩を見ていたか、また、対馬もセットに掘り起こしていきたい。

【塚部 伊万里市長】

成富兵庫茂安が行った治水事業ももう一度見直すべきではないか。伊万里市は鍋島藩と唐津藩が治めていたところであり、お酒の飲み方などのしきたりが異なっている。

【岸本 玄海町長】

日本人は個人的な感触として歴史認識が非常に薄い気がしている。今回の明治維新の顕彰は子どもたちにとっていいことである。子どもたちに歴史認識を持ってもらえる取組を県が主体的にやることはありがたい。

【山口 有田町長】

歴史を子どもたちに分かりやすい資料づくりなどをやらなければ、断片的に行ってはいけない。有田焼創業 350 年祭の際に、先人たちが窯業や政治などのジャンル別に町史の編纂を行い残している。子ども向けには簡単な本を作っている。

【多良 吉野ヶ里町長】

町史は専門的になるため、子どもたちに故郷を誇りに思ってもらうために、小学校 4、5 年生向けの教材としても使えるような資料を作っている。吉野ヶ里町は外部出身の方が多いため、気軽に読める資料となるようにしている。

【樋口 鹿島市長】

教員がその町の歴史を学べるようなシステムを作ってもらいたい。町のことを知る前に異動になってしまう。

【橋本 鳥栖市長】

この分野こそ地域教育の出番であると思っている。まちづくり推進センターを作って、小学校区ごとに、歴史遺産などのまち歩きの会を行っている。鳥栖市は鍋島藩と対馬藩が治めていたため、歴史全体の大きな流れを踏まえたことができれば、自分の住んでいる町への理解が深まると思っている。

【松本 神埼市長】

朝ごはんの話に戻るが、親の時間がなく子どもが食べていない家庭が多い。親への啓発をどうするかが大切である。

【塚部 伊万里市長】

平成 16 年度くらいに朝ごはん条例を議会に提案した経緯があるが、県でも朝ごはん条例のよう

なものを作ってもらいたい。

【山口 知事】

朝ごはんにした理由は素材の良さを生かすことができると考えたため。

【末安 みやき町長】

偉人・賢人などをうまく活用して各市町とリンクしていくかが大事と思っている。全国規模にするためにどんな戦略を検討されているのか。

【山口 知事】

器と食の融合をテーマとして取り組んでいる。佐賀に移住された方で、佐賀の素晴らしさの一つに食を挙げられる方が多いので、我々自身が良さをもっと知る必要がある。

～あさご藩 PR 動画上映～

【塚部 伊万里市長】

朝ごはんを食べている子どもと食べていない子どもの学力に差があるため、朝ごはんを食べさせることが食育になる。

【山田 江北町長】

食でいうと、以前、肥前山口駅は分岐の関係で長時間停車していたため、常盤軒という駅弁屋があったが、今は廃業しているが、家にレシピがあるということで、復活させたいと考えている。今年度から研究会を立ち上げている。

【松田 基山町長】

4年間「こころつないで」という昔をテーマにした児童劇をやっている。今年から大正時代をテーマに大人も含めて創作劇をやっている。基山町は鳥栖市の田代地区と一緒に対馬藩であったが、そこで生まれたのが田代売薬ということで、今でも基山町には売薬をしている方が約30人いる。今度富山が売薬で日本遺産を申請したいとのことだったので、鳥栖市と基山町もこれに乗るような話がある。

【山口 知事】

1965年あたりは滋賀県や奈良県と人口が同じであったが、現在では滋賀県や奈良県の方が人口は多い。佐賀県の都市計画が原因の一つであった。人口という意味での底力が佐賀県にはあると思っており、農業とのうまく棲み分けを行いながら都市計画のあり方を考えていく必要がある。

【山口 有田町長】

有田町にも歴史的に有用なものが多くあるが、それを産業に繋げていくかが一番のポイントになる。産業としてビジネスモデルを確立しなければ、逆に行政の負担になるだけで、地方の活性化にならない。

【末安 みやき町長】

「あさご藩」を作ったコンセプトは何か。

【山口 知事】

素材のレベルを超える6次化産品はなかなか難しいので、まずは薄化粧して素材の良さを売り出しを行いたかった。

【山口 有田町長】

昼食で有田鶏を使った有田焼御膳を6~7件のお店で実施している。器はそれぞれのお店に合う有田焼を使用しており好評となっている。

【山口 知事】

県民よりはレシピのコーナーが意外と人気がある。

【松本 神埼市長】

前の国体のときに民泊を行ったが、それぞれの地域で朝・昼・晩、料理を作られていた。

【山口 知事】

国体の時は宿泊施設が足りない。多久はクライミングの壁はどうしたのか。

【横尾 多久市長】

作りたいので県の予算の確保をお願いしたい。14年前に作った県の協力のおかげで今では、Jrの男子・女子とも県勢がトップクラスにいる。

【山口 知事】

オリンピックのキャンプや練習の誘致も含めて、早くから市町に整備してもらいたい。